

No	感染症(PT)	出典	概要
165	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 320-328	血漿製品によるプリオン感染症例は今まで見られていない。国によって対策は異なるが、vCJDやBSEのある国での疫学的調査、特定の期間にBSE発生国へ旅行したり、住んでいた人や輸血や組織移植を受けた人に対する供血延期措置、血漿中の白血球除去、複雑な産業的分画過程中的でのプリオンの除去などが行われている。エタノール分画、デプスフィルトレーションおよびクロマトグラフィーは数logのプリオンを除去できる。またナノフィルトレーションもプリオン除去に有用な方法である。
166	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2007; 47: 1418-1425	PrPTSEのmisfolded protein diagnostic (MPD) アッセイは、TSE感染マウス、正常マウスおよびPrPノックアウトマウス由来の脳組織中で、ウェスタンブロットシグナルと相関し、異なったペプチド配列を持つ試薬ではnegativeアッセイシグナルであった。血漿又は血清に対して適用した場合には、MPDアッセイは未感染の対照と比較して、種々の実験的および自然TSE感染由来検体を区別した。MPDアッセイは、ヒト及び動物のプリオン病の前臨床及び臨床診断にあたり有用であると考えられる。
167	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vaccine (2006), doi:10.1016/j.vaccine.2006.10.058	ヒトや動物におけるTSEの多様性を解明するため、PrPresの詳細な特徴が研究されている。分子学的方法により、最近、ヨーロッパと米国の感染牛で異常なBSE型が発見され、少なくともBSE牛の何例かには別の起源の可能性が出てきた。小型反芻動物での新しいTSE型は「非典型的スクレイピー」または「Nor98」と呼ばれ、ヨーロッパの大部分の国でTSE迅速検査で同定されている。
168	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Rec 2007; 160: 215-218	カナダで乳牛のBSE感染が確定したことで、牛肉だけでなく牛乳や乳製品が病原体プリオンを含有しているかが大衆の関心事となった。このレビューは、牛乳や初乳中のプリオン、ならびに種々の動物系における垂直および水平感染に関する研究から牛乳の安全性に関するエビデンスを検討した。エビデンスは牛乳の消費による新たなvCJD感染のリスクは無視できることを示した。
169	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Virchows Arch 2007; 451: 1057-1065	リンパ器官から中枢神経系へのPrPScの神経侵襲に関する細胞の要件を明らかにするために、共焦点顕微鏡を用いて、正常およびPrPSc経口投与後マウスのパイエル板、腸間膜リンパ節および脾臓内の神経支配について調べた。前臨床プリオン感染マウスではPrPSc蓄積細胞(濾胞樹状細胞)の神経支配はなく、T細胞ゾーンと細胞輸送領域で神経線維とPrPSc伝達細胞(樹状細胞)の接触が見られた。プリオンの神経侵襲過程に樹状細胞が関与する可能性が初めて示された。
170	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Zoonoses Public Health 2007; 54: 185-190	スクレイピーに感染したハムスターの脳ホモジネートをウシの胃腸管細菌叢と40時間インキュベートするとPrPScは免疫化学的には検出できないレベルにまで減少したが、このホモジネートを処理後、ハムスターの脳内に接種したところ、プリオン感染性は保持されていた。抗プリオン抗体3F4免疫反応性の消失はPrPScの生物学的不活性化と相関せず、TSE不活性化の評価にウェスタンブロットを用いることの欠点が見え明らかになった。更に、プリオン経口摂取後のPrPScを含む糞による環境汚染の可能性を示した。
171	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	農林水産省プレスリリース 平成19年12月14日 第5回プリオン病小委員会	日本において平成19年2月までに確認された32例のBSE発生事例について、感染源および疫学的研究の結果が報告された。1995-1996年生まれの北海道・関東群(13例)について、統計的には共通の飼料工場で製造された代用乳が原因となった可能性が考えられるが、オランダ産の粉末油脂を感染原因とする合理的説明は困難であった。2001年10月以後リスク管理措置がとられ、2002年4月以降は全く陽性例は発見されていない。日本はBSEの封じ込めに成功すると見込まれる。
172	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(44) 2006年11月2日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No. 10: 今回報告終了日-2006年10月27日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、最後のfollow-up report以降、新たなアウトブレイクは報告されていない。
173	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(46) 2006年11月16日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.11: 今回報告終了日-2006年11月13日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新たなアウトブレイク-Wyoming州、Natrona郡の農場における1件(アウトブレイクの開始日2006年10月30日): ウシにおいて疑い例60例、症例1例、ウマにおいて疑い例6例、症例1例。
174	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(47) 2006年11月23日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.12: 今回報告終了日-2006年11月20日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、新たなアウトブレイク-Wyoming州、Natrona郡などの農場における3件(アウトブレイクの開始日2006年8月13日、10月30日): ウシにおいて疑い例418例、症例5例、ウマにおいて疑い例30例、症例1例。
175	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	OIE Disease Information 19(49) 2006年12月7日	米国における水疱性口内炎-Follow-up report No.13: 今回報告終了日-2006年12月4日、病因の同定-水疱性口内炎ウイルスタイプNew Jersey、アウトブレイクの初回確定日-2006年8月17日、アウトブレイクの開始日-2006年8月13日、2006年11月20日~12月3日の報告期間に、新たな水疱性口内炎陽性の施設は確認されていない。